

# 球体転がり除草

## 福岡で資材展示会



コンソーシアムが開発、展示した球体除草ロボット

持続可能な農業に向けた生産資材や技術を紹介する展示会が23日、福岡市のマリメッセ福岡で始まった。水田内を転がり回る球体型の除草ロボットや、自動運転のリモコン草刈り機など雑草対策製品が目立ち、出展者は、省力化や環境配慮につながるなどア



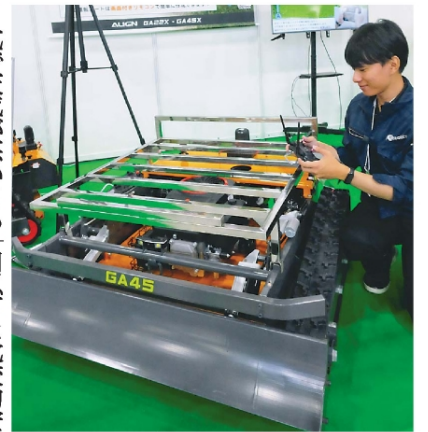
表面に凹凸があり、水田を自動で走行することでヒエやコナギといった雑草をかき出して除草する。バッテリー

式で天気が悪い日も使え、田植えから7〜10日後に水田に入れて使う。直径は30センチ弱で、重さは2〜3キロ程度と持ち運びがしやすい。県内で実証を進めているという。台湾メーカー・ALIGNの自動草刈り機も展示された。ガソリンと電動のハイブリット式で、地図データを入手し、始点や終点、刈り幅を設定すると、範囲内の草を自動で刈る。刈り幅は最大75センチの物と60センチの2種類で、いずれも100万

ピールした。24日まで。

展示会は「九州アグリ・イノベーション九州みどりの食料システムEXPO2024」で、日本能率協会が主催した。

球体型の除草ロボットを展示したのは、熊本県立大学や熊本高专などをつくるコンソーシアムだ。中山間地など比較的小規模な水田での除草の省力化・軽労化に貢献し、農業を使わない米作りをサポートする。



台湾メーカー・ALIGNの自動リモコン草刈り機

円以下と比較的安価に導入できる。休耕田や河川での利用を想定する。大分市のc i R o



シーアイロボティクスが開発した除草剤の散布ロボット(いずれも23日、福岡市で)

botics(シーアイロボティクス)が出展した。同社は、自社製の水

田向け除草剤散布ロボットも展示。汎用(はんよう)性のあるバッテリーで動き、操作も容

易という。重さも5キロ以下と軽く、簡単に持ち運べるなどとアピールした。